審査の結果の要旨

氏名　徐　国興

高等教育への進学選択がどのような要因に規定されるのか、とくに大学進学に要する費用と、大学に進学することによって得られる利益とがどのような影響を与えているのか、はこれまで各国の高等教育研究において重要な研究対象であり続けてきた。とくに経済発展が著しい中国においては授業料の高騰にもかかわらず、大学への進学率が急速に拡大し続けており、それがどのような動機に支えられているのかを解明することは、大衆化の背景を明らかにするうえでも、また高等教育の機会均等性を考えるうえでもきわめて重要な分析課題である。本論文はそうした観点から、中国の高校 3 年生の進学希望についてのアンケート調査をもとに、彼らが予想する進学のコストと卒業後の賃金、そしてその進学選択に対する影響を、実証的に分析しようとするものである。

序章においては以上のような背景からの分析の意図をのべ、それに答えるための分析の枠組みを設定している。第 1 章では先行研究を概観しつつ、進学選択のプロセスを概念的に図式化し、とくに高等教育についての「内部収益率」の概念が進学動機を解明するうえでどのような意味をもつかを論じている。また第 2 章においては、中国における進学選択の背景となるマクロ的な高等教育構造、進学率、授業料の趨勢などを整理している。

続く第 3 章ではアンケート調査をもとに、進学志望とその実現可能性の自己認識の分布、またその家庭背景･個人属性との関係を分析している。第 4 章では進学に要する費用とその負担の可能性を高校生がどのように認識しているのか、またそれが進学選択にどのような影響を与えているのかを分析し、とくに負担能力を過大に評価する高校生が少なくないことを見出している。さらに第 5 章では進学することによって得られる利益を高校生がどのように認識しているのか、またそれが家庭背景･個人属性とどのような関係をもつのか、またさらに予想される費用と利益との間にどのような関係があるのかを分析している。

さらに第 6 章においては、予想収益と予想収益から予想収益率を算出し、中国の高校生は一般に、高等教育に進学することによってきわめて高い収益率をあげうると考えていることを明らかにしている。また第 7 章では、収益率が高校生の進学選択にどのような影響を与えているのかを統計的に分析し、またそれを高校生に対するインタビュー調査を参照しつつ検討している。

以上の分析をつうじて本研究は現代中国においては、大学進学によって期待される経済的利益がきわめて高く、それが高い進学意欲の少なくとも一つの要因となっていることを示し、また低所得層においては進学費用が過少に評価され、それが経済的要因による機会の不均等への社会的な不満を大きくさせない要因となっていることを示唆している。予想費用、予想利益の規定要因の分析にさらに課題が残っていることが指摘されたが、全体としては以上の点を実証的に明らかにしたことは高く評価された。このような観点から博士（教育学）の論文として十分な水準に達しているものと認められる。